

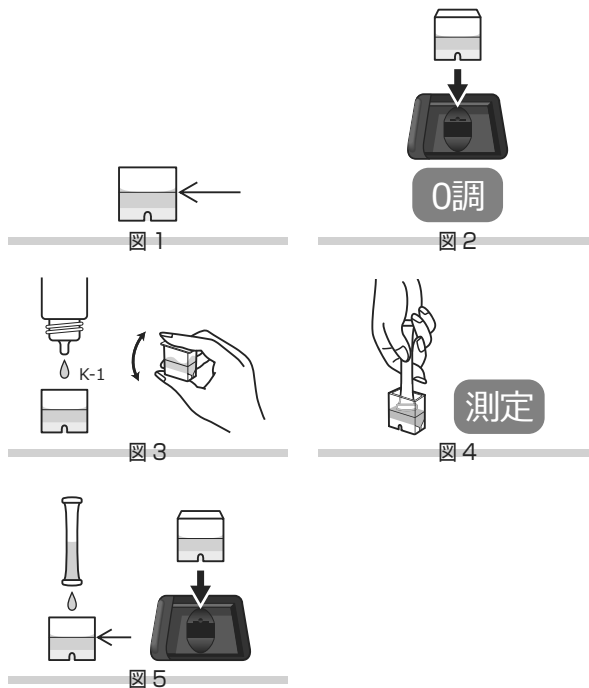
Phenol フェノール

発色：淡黄→橙→赤
 測定原理：酵素を用いた 4- アミノアンチピリン法
 測定範囲：0.20 ~ 5.00 mg/L (ppm)
 試薬：WAK-PNL K-1 (滴ビン)、チューブ
 測定時間：チューブに吸い込み後 8 分

セル：専用カップ
 使用波長：508 nm

測定方法

1. 【Phenol】を押します。
2. 【決定】押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図2)
5. K-1 試薬を1滴加え、蓋をして2 ~ 3回振ります。(図3)
6. パックテストのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図4)
7. 6. のチューブを軽く5 ~ 6回振り混ぜて、すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図5)
8. 経過8分後に濃度が自動表示されます。



注意

1. フェノール類は、JIS 法ではフェノール類と *p*-クレゾール類に区別されますが、この方法ではフェノール類のみが測定されます。*p*-クレゾール類は測定されませんのでご注意ください。
2. 発色時の最適 pH は 8 です。pH が 5 ~ 10 の範囲をこえる検水は希硫酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
3. 検水の温度は 15 ~ 30℃ で測定してください。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水は影響しません。

酸化性物質や還元性物質が影響する場合があります。

1000mg/L以下は影響しない	…B ³⁺ (ほう酸)、Ba ²⁺ 、Cl ⁻ 、F ⁻ 、I ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Na ⁺ 、NO ₂ ⁻ 、NO ₃ ⁻ 、SO ₄ ²⁻ 、Zn ²⁺
500mg/L	// …Ca ²⁺ 、Cd ²⁺ 、NH ₄ ⁺
200mg/L	// …As ³⁺ (亜砒酸)、PO ₄ ³⁻ 、陰イオン界面活性剤
100mg/L	// …Mo ⁶⁺ (モリブデン酸)、SCN ⁻
50mg/L	// …Ag ⁺ 、Cr ³⁺ (クロム酸)
20mg/L	// …Co ²⁺ 、Cr ³⁺ 、Cu ²⁺ 、Fe ³⁺ 、Ni ²⁺ 、残留塩素
10mg/L	// …Mn ²⁺ 、SO ₃ ²⁻
5mg/L	// …CN ⁻ 、Pb ²⁺
1mg/L	// …Al ³⁺ 、Fe ²⁺

試薬に関するお知らせ

パックテストに付属の使用法をご参照ください。

測定液は約 pH8 です。